

## 大切にしたい 郷土の宝

八代市立坂本中学校 1年 村山 力斗

八代には、「水島」という島がある。島といっても、周囲約200メートル、高さ約11メートルの石灰岩の小島である。

熊本の心「神さび居るか これの水島」には、この水島にまつわる歴史や文化が書かれていた。平成21年に「不知火および水島」として国指定の名勝となったようだが、僕はそんな文化財が八代にあることを初めて知った。名勝となった理由は、日本書紀や万葉集などにこの水島のことが詠われており、日本書紀には、景行天皇が食事をしようとした時に水が無く、小左という人が天地の神に祈ったところ清水が湧いてきたという神話が書かれていた。水島から水が自然と湧き出してきたことを知り、僕は単純に「すごい」と思った。

さらに、江戸時代、この水島が干拓地として陸地化されようとした時代があった。しかし、歌人で国学者でもあった熊本藩士の和田巖足は、「このまま計画が進めば、水島が島でなくなる。」と思い、八代城主に計画の変更を申し出たのである。この巖足がいなければ、また、巖足が勇気をもって訴えなければ、今の美しい水島は存在しなかったのかもしれない。この学習を通して、八代の歴史や文化についてもっと知りたいと興味を持った。

僕は、八代市坂本町に住んでいる。坂本は山と川に囲まれた自然が豊かな地域である。坂本にも文化財があるのだろうかという疑問に思い、文化財を調べてみることにした。実際に調べてみると、僕が住む地区にも「阿蘇宮の森」という天然記念物となる文化財が存在した。他にも坂本には眼鏡橋や地蔵堂、無形民俗文化財として棒踊りや雨乞いなどもあった。僕は、自分が知らなかっただけで、たくさん文化財があることを知り、嬉しい気持ちとともに誇らしい気持ちにもなった。また、実際に観てみたいとも思った。

また、巖足の勇気ある行動にも感動した。僕は、自分から進んで意見を言うことが苦手である。だから、巖足が勇気を出して天下の城主に自分の思いを伝えたことは、本当にすごいと思った。巖足の郷土を愛する心と強い信念が勇気ある行動につながったのだろう。また、信念をもって伝えれば必ず相手に伝わるのだと思った。

授業の終わりに「水島万葉の里づくり会」について紹介された。定期的に清掃をしたり、イベントを開催したりして、多くの人に水島の素晴らしさを伝え、その歴史や文化を守っておられることを知った。このように守り受け継いでいる人がいるからこそ、水島は今でも郷土の宝として残っているのだと思った。

僕も坂本の宝を多くの人に伝え、その文化を少しでも受け継いでいきたい。そして、巖足のように故郷を愛し、信念をもって自分の思いを伝えられる人間になりたい。